



京都府立医科大学附属病院広報誌

かもがわ

vol.
35
2022.1

特 集

—新型コロナウイルス感染症への対応



CONTENTS

- ▶ 特 集：コロナ対応に係る4つのポリシーと私たちの対応
- ▶ トピックス：診療科の日々
- ▶ 健康・予防の豆知識
- ▶ 病院で働く人々：理学療法士 宮本 啓江

- 1 第一種感染症指定病院としての責務を果たす
- 2 大学本来の高度医療である日常診療をできる限り維持する



分子病態感染制御・検査医学教授
ぬくい ようこ
貫井 陽子

2021年11月に京都府立医科大学大学院分子病態感染制御・検査医学教授に着任しました貫井陽子と申します。今回は当院の新型コロナウイルス感染症への取り組みについてご紹介いたします。

当院は京都府内唯一の第一種感染症指定医療機関として輸入感染症を含むさまざまな感染症疾患に対応してきました。これまでの感染症対応を基盤とし、今回の新型コロナウイルス感染症についても、人工呼吸器や体外式膜型人工肺（ECMO）治療が必要な重症例を中心に多くの患者さんの治療に当たってまいりました。また地域の医療機関と有機的に連携を行い、京都府の新型コロナウイルス感染症による死亡率は大都市圏の中でも最小を達成しており、京都府全体の感染症対応にも大きく貢献することができました。

また当院では感染症以外にも多くの重症患者さんが入院しており、それらの患者さんを新型コロナウイルス感染症から守る院内感染対策も積極的に行ってまいりました。院内への持ち込みを防止するための入院前PCR検査の実施、手指消毒の励行、職員の体調管理、医療従事者への個人防護具の適切な使用の教育等について感染対策部を中心に病院全体として安全安心な医療の提供を行ってまいりました。

新たな変異株の出現など、新型コロナウイルス感染症についてはまだまだ予断を許さない状況が続きます。また今後もしも新たな新興・再興感染症への対応が必要になる可能性も高いと考えています。京都府全体の感染制御・感染症診療のリーダーとなるべく、当院では教育・診療・研究をさらに発展させてまいります。みなさまのご支援ご協力のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。



職員への個人防護具着脱教育

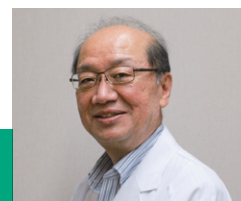
～竹中学長コメント～

新型コロナウイルス感染症が中国武漢で報告されて2年経ちました。ワクチン接種も12月7日から3度目が始まり、経口治療薬も認可が続いています。しかし、感染症克服は行動様式の変容に依るところが大きいですし、新しい変異株も気になるところです。

一方、この2年間の附属病院の新型コロナ対策は身びいきではなく正に全員野球の成果でした。これまで蓄積してきた附属病院の診療経験を今後も活かしたいと思います。



病院長 やく ひとし
夜久 均



2021年11月現在、第5波が収束し、社会活動・経済活動共に次第に元に戻ってきています。2020年1月に院内コロナ感染対策会議を立ち上げてから今日まで、上記の如く4つのポリシーを掲げ、他の重症医療機関や京都府などの行政機関とも密に連携を取り合い、常に前を向いてコロナ対応に当たってきました。

当院は大学病院、また特定機能病院として、他の医療機関ではできない治療や手術を多く手掛けていますが、今般コロナ患者さんを受け入れるにあたり、大学病院としての通常に行っている医療をどの程度まで制限するのが、病院長として一番判断に苦慮いたしました。結果として、多くの患者さんに手術延期等のお願いをしましたが、そのお願いが患者さんの不利益に転じることにならないように、疾患の進行度、緊急度に応じた対応を各診療科と綿密に調整しています。

今後、第6波が来ないことを祈っていますが、コロナに対する備えを行いながらも、大学本来の高度で先進的な医療を提供し続けて参ります。引き続き皆さまのご支援を是非お願いいたします。

3 医療従事者に二次感染を起こさない

4 患者さんに安心・安全な治療の提供を

報道でも伝えられていましたが、当院の看護部も同様、看護師人員の確保は喫緊の大きな課題でした。

最前線に立つ看護師は、高度な医療・看護の知識・技術・経験、そしてタフでしなやかな精神を持つ人財が必要とされ、重症病床ではこれらの人財をICUや手術室、一般病舎等から移動・再配置することといたしました。もちろん今までとは違い新たに結成されたチームでしたので、当初はみんな戸惑っておりましたが「とにかく患者さんを助けたい」という信念の元、一丸となって第1波から第5波まで多数の患者さんを受け入れ、見事に必要な医療・看護を提供してくれていました。

またコロナ中等症や妊産婦さん、そのベビーちゃん、精神疾患を有する患者さんの受け入れも一般病舎等で2つのチームにわかれて対応していました。様々な危機的状況に直面しながらも、限られた資源の中で最大限のケアを提供することに邁進し、患者さんやそのご家族を医療の中心に置くことについて遵守してくれていました。改めて、これまでを振り返ると、当院の看護部職員の底力を感じるとともに、これらの経験の中で培われた学びは、本当に何ものにも代えがたい宝になっております。



看護部長
ふじもと さわこ
藤本 早和子



臨床工学技士長
はたなか ゆうや
畑中 祐也

まず、臨床工学技士とは、生命維持管理装置の操作や医療機器の保守管理を行う医療専門職です。あまり多くの患者さんと接する機会のない職種ですが、新型コロナウイルス感染症に際しては、人工呼吸器・血液浄化装置や、一部メディアで取り上げられ患者さんを救命する『最後の切り札』とも言われましたECMO（エクモ）などを管理する職種として、診療に従事しています。

今回の新型コロナウイルス感染症に対しては、発生当初より非常に厳しい緊張感が生まれました。今では国内国外を問わず様々な研究結果などが報告され、少しずつ知見が蓄積されてきていますが、その中で、自分の身を守るとともに患者さんの生命を維持する機器を管理するために、24時間365日の体制で良質な医療を提供できるようスタッフは懸命に業務へ従事しています。

特定機能病院また第一種感染症指定医療機関のスタッフとして、今後も責務を果たせるようにスタッフ一同、邁進したいと考えています。



ECMO 施術後の病室への移動

人工呼吸器と違い、ECMOではカテーテルの挿入を行うための手術が必要になる。

施術や機器の管理には、複数の医師・看護師・臨床工学技士の連携が必須のため、このケースでは一人の患者さんに対し7名の医療スタッフが付き添っている。

大学病院の総合診療科は、発熱をはじめ様々な症状の内科患者様に対応しておりますが、昨年から COVID-19 感染拡大に伴い、総合診療科は感染症科・救急科の応援にまわり、新型コロナウイルス感染症特別診療体制へシフトしておりました。発熱患者の救急対応・ふりわけ、感染患者の外来診療、関連病院との感染患者に関する地域連携のみならず、病棟での入院加療の担当、退院転院調整なども行っており、2021 年の第 4 波、第 5 波とよばれる逼迫した状況下では、酸素投与を要する中等度レベルを中心に 100 名弱の入院患者を当科で担当しました。流れるようにたくさんの方を診る中で、一例ずつ丁寧に対応するよう心がけております。

また、感染者の退院後のフォローアップや感染後・ワクチン接種後の後遺症状の相談についても、当科外来でお受けしており、そうした患者様が今後増加することが予想されます。引き続き総合診療科は新型コロナウイルス感染症診療を総出となって取り組んでまいります。ご理解ご協力のほど、よろしくお願い致します。



総合診療科



救急医療科

2021 年夏の COVID-19 第 5 波以降、COVID-19 陽性であっても酸素吸入が必要ではない場合、自宅またはホテルを利用した隔離施設で経過観察を行うようになりました。しかし、軽症であっても急速に病状が悪化することもあり、迅速に治療を開始しなければ生命が失われる恐れが生じます。

そこで、京都府立医科大学附属病院では、「COVID-19 陽性で、自宅または隔離施設で待機中に救急要請した患者さんは必ず受け入れる」という方針が定められました。こうした救急要請があると、消防本部から「京都府新型コロナウイルス感染症入院医療コントロールセンター」を通じて、当院のコロナ担当医師の専用携帯電話に直接収容依頼が入ります。担当医と看護師は、N95 マスク、2 重の手袋、長袖ガウン、帽子、アイシールドといった感染防護具を装着して COVID-19 陽性患者を迎えます。診療の結果、帰宅可能となる患者さんもおられますが、半数以上は入院が必要となり、緊急で人工呼吸器やエクモ（ECMO）を装着した患者さんもおられました。2020 年 8 月 5 日の運用開始から 2021 年 12 月までに、京都における COVID-19 陽性者の救急搬送の約 6 割に当たる 369 名をこのように受け入れました。引き続き、少しでも府民のみなさんのお役に立てるよう努めてまいります。

コロナ禍の周産期診療 —周産期診療部の奮闘—

周産期診療部は1982年6月に開設され、現在は産婦人科が管轄するB3（産科）病棟・母体胎児集中治療室（MFICU）と、小児科が管轄する新生児集中治療室（NICU）・新生児治療回復室（GCU）で構成されています。2018年4月にMFICU 3床を新たに開設し、2021年8月からNICUは6床から9床へ増床され（+新生児治療回復室（GCU）12床）、当院は総合周産期母子医療センターに指定されました（写真上）。この度はコロナ禍における周産期診療部の奮闘をお伝えしたいと思います。

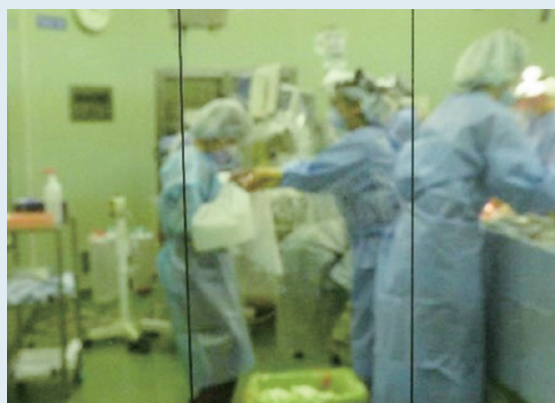


まずはコロナ禍前の話から。2019年10月、より多くの新生児の入院を受け入れるべくNICU増床工事を開始しました。再オープンには2020年4月の予定。我々は工事前、赤ちゃん和家人のプライベート空間を作るためNICU内に個室を2床作る計画を立てました。さらに感染症対策にも使えるよう陰圧となる個室にしました。この時はまさかコロナ禍になるとは知る由もなく…。

2020年の年が明け、4月には新しいNICUが出来上がりましたがコロナ禍に突入。第一種感染症指定病院である当院はコロナ患者の受け入れを始め、周産期診療部もコロナ感染妊婦・新生児の対応が急務となりました。感染対策部の指導の下、麻酔科、産婦人科、小児科で話し合いを重ね、分娩時のシミュレーションを行い、NICU内の陰圧個室2床はコロナ妊婦から出生した新生児の入院病床としました。分娩や新生児対応に関わる全員がN95マスクやアイソレーションガウンなどの防護具を着用しての初めての対応の際の緊張感、重圧感は非常に大きなものでした（写真下）。ただ、入念に準備を整えていたこともあり、赤ちゃんは元気に出生され、母子共に元気に退院することができました。

現在までに、周産期診療部ではコロナ感染妊婦とその妊婦から出生した新生児や、出生後に濃厚接触者となった新生児の入院を受け入れており、府下のコロナ禍周産期医療の中核を担うべく、邁進しています。

コロナ禍で妊婦さんやご家族の不安は非常に大きい状況におありかと思いますが、コロナに限らず、当院を必要としてくださる妊婦さん、赤ちゃんに安心して診療を受けていただけるよう、周産期診療部スタッフ一同より一層の努力をして参りますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



帝王切開中（赤ちゃんを産婦人科医師から看護師へ受け渡し）



保育器に入った新生児がNICU内陰圧個室へ入室



栄養管理部 連載企画
vol. 19

栄養の豆知識

「感染症に負けない体づくり」

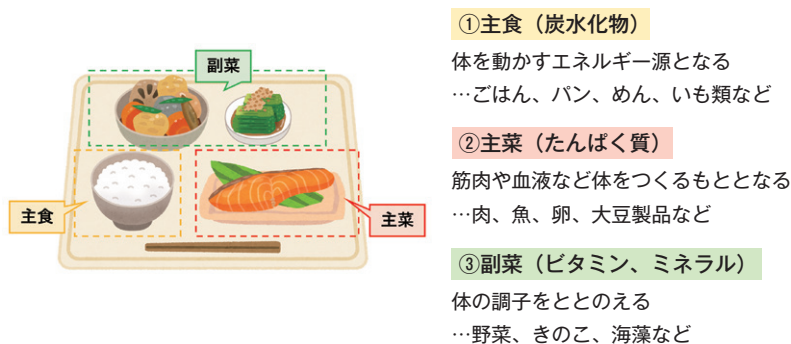
感染症の予防において、「これをとれば大丈夫！」という栄養素や食べ物は残念ながらありません。

ですが、①**主食**、②**主菜**、③**副菜** をそろえた『バランスのよい食事』をすることで、体がしっかり機能し免疫力が高く保たれ、感染から身を守ることにつながります。これら3つは、どれかに偏ってしまうと体の中で十分な働きができません。そのため、組み合わせを意識して食べることが大切です。

何品も用意することが大変な場合でも、下のように食材の組み合わせを意識すれば、炭水化物、たんぱく質、ビタミン、ミネラルをとることができます。

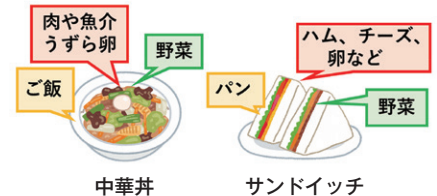
いろいろな栄養素が協力しあうことで、わたしたちの体はしっかり機能し、免疫力を高く保つことができます。

1日3食、偏ることなくバランスのよい食事を心がけ、元気な体を維持しましょう！



一品料理でも、**食材の組み合わせを意識！**

【例】



臨床検査部 連載企画
vol. 26

臨床検査の豆知識

「ABO 血液型検査について」

ABO 血液型は、A 型・B 型・O 型・AB 型の 4 つに大別されますが、その判定には、

患者赤血球上に存在する抗原を調べるオモテ検査と、患者血漿中に存在する抗体を調べるウラ検査が行われます。

(この 4 つに分類できない亜型といわれる変種も稀に存在します。)

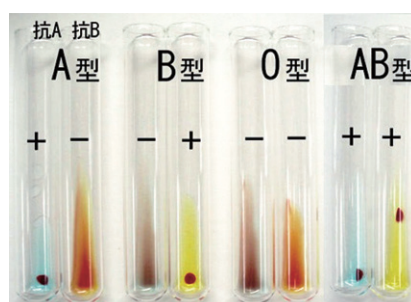
血液型	抗原 (赤血球表面)	抗体 (血漿)	日本人のおおよその割合
A 型	A 抗原	抗 B 抗体	40%
B 型	B 抗原	抗 A 抗体	20%
O 型	なし	抗 A 抗体・抗 B 抗体	30%
AB 型	A 抗原・B 抗原	なし	10%

オモテ検査：

採血した患者の血球と試薬（抗血清）を反応させ、凝集する（固まる）かどうかを判定

ウラ検査：

採血した患者の血漿と血球試薬を反応させ、凝集する（固まる）かどうかを判定



オモテ検査例



「新型コロナウイルスの治療：飲み薬が登場すると何が変わるの？」

2021年11月、英国の医薬品・医療製品規制庁（MHRA）はメルク社のラゲブリオ（Lagevrio、一般名：モルヌピラビル）を承認し、世界初の新型コロナウイルスの飲み薬が治療薬として認められました。また、米国などではファイザー社のパクスロピド（Paxlovid、PF-07321332 とリトナビルの合剤）も、緊急使用申請がなされています。

これらの飲み薬は、日本でも使用できるように申請が進められているところですが、では、飲み薬が登場すると何が変わるのでしょうか？

現在日本で使用されている新型コロナの治療薬には、抗ウイルス薬のレムデシビルや抗体カクテル療法のカシリピマブ/イムデミマブ等がありますが、いずれも点滴や注射によって体内に投与する必要があるため、特定の医

療施設で受けなくてははいけません。ここに飲み薬が登場することで、ホテル療養者や自宅療養者は居室で、速やかに治療を受けることができるようになります。第5波では、感染者の増加から入院することが困難となり、自宅で重症化されるケースも起こりました。この新型コロナの飲み薬を使用して重症化を抑えることができれば、医療のひっ迫を防ぐことも期待されます。

ただ、患者さんの状態や薬の飲み合わせなどで、飲み薬が使えない場合も考えられますので、ご自身や周りの方を守るためにも、重症化を防ぐことができるワクチン接種についても検討なさってください。



今すぐ出来る、簡単 Exercise !

ステイホームで外出を控えるうちに、外へ出るのが億劫になっていませんか？

運動不足は万病の元。今すぐ出来る簡単 Exercise で健康を取り戻し、さらに元気になりましょう！



①深呼吸

まずはゆっくり深呼吸～



④お口の運動

お口をしっかり動かして筋肉をほぐしましょう。お話がしやすくなりご飯もおいしくいただけます。



②ながら筋力トレーニング

簡単なものからスタート！

テレビを見ながら、おしゃべりしながら気楽に取り組みましょう。



③有酸素運動

息が少し上がる程度に元気よく動きましょう。

運動不足になると、こんなことも…

- ・筋力や体力の低下
- ・肺や心臓の働きが悪くなる
→ 息切れしたり、疲れやすくなるかも!?
- ・飲み込む機能や消化器機能の障害
→ 便秘、消化不良、食欲不振がおこるかも!?
- ・精神的な変化
→ 不安感、睡眠障害がおこるかも!?

▶入院中の方へ

テレビの「アナログ」⇒2チャンネルで体操の動画見ることができます。（他の病院説明の動画と順番に流れています）

▶Youtube から動画もご覧ください↓↓

<https://www.youtube.com/watch?v=JHa7Sbj-jeQ>



当院の「基本方針」と「患者さんの権利」をよりわかりやすい表現に変更しました。

■ 基本方針

- 高度で安全、患者さんにとって安心な医療の提供に努めます
- 患者さんの権利を尊重し、患者さん主体の医療を行います
- すべてのスタッフは互いに連携し、チーム医療を進めます
- 新しい医療を開発するとともに、未来を担う医療人を育成します
- 京都府における基幹病院として、地域医療に貢献します

■ 患者さんの権利

- 個人の人格が尊重され、年齢、性別、信条、障がいの有無などに関わらず、平等に良質な医療を受けることができます
- わかりやすい言葉や方法で、十分な説明を受けることができます
- 十分な説明を受けた上で、自らの意思で治療方法等を決定することができます
- 医療に関する個人情報やプライバシーは、保護されます
- 診療録等に記録された自己の診療内容について、情報提供を受けることができます
- セカンドオピニオン（他の医療機関等の意見）を希望される場合は、紹介を受けることができます

病院で働く人々 case 1

未来に向けて、1 つでも多くの選択肢を

医療技術部リハビリテーション技術課 理学療法士 みやもと けいこ 宮本 啓江

— 支えられる側から支える側へ —

「学生時代はスポーツをしていました。あるとき、怪我をしたのをきっかけに『理学療法士』という職を知り、今度は自分が、支える側へ回りたいと思いました。」

少し緊張した面持ちで話始めてくれた宮本さんは、当院に入職して6年目。日頃どういった思いで仕事をしているのか、胸のうちの少し明かしてくれました。

— 『進化する技術』と『変わらないもの』 —

理学療法士の仕事は、怪我や病気などで身体を動かしづらくなった方が大きな動作（座る・歩く等）が出来るようになるように、リハビリを施すこと。リハビリが必要な方は身体を支えてあげる必要があることも多く、小柄な宮本さんには結構な重労働です。

「それでも最近はいろいろな補助機器、特にロボット機器が出て来て、こういった力仕事も減ってきているんです。当院にもウェルウォークという歩行アシストロボットがあり、立ち上がりから歩行、そのデータ管理まで、ロボットが助けてくれるんですよ。おかげで、より多くのリハビリを患者さんにしてもらおうことが出来ます。」

一人の人を立ち上げらせ、その歩行補助をするのには思っているよりも時間がかかります。その部分をロボットにカバーしてもらえれば、そこにかかっていた時間をリハビリに充てることが出来、患者さんにしてあげられることが増えるそう。

最新の技術に感動したのもつかの間、宮本さんのポケットから出て来た『リハビリスケジュール』は、思いも寄らない鉛筆書き。「その日その日の患者さんの状態に合わせてスケジュールを変えないといけないので。」と、はにかみながら教えてくれました。

— いつでも患者さんのために —

「今後は出来るだけ学会などに参加して、より勉強に熱を入れていきたいです。リハビリは命に関わるものではないと思われがちですが、やればやるだけ患者さんのその後の生活の質が良くなる。少しでも良いリハビリの機会を出来るだけ多く提供して、患者さんのその後の時間が素敵なものになるように出来ればと思います。」

真剣なまなざしで今後の抱負を教えてくれた宮本さん。技術がどれだけ進化しても、そこにある思いはいつも変わらず、『患者さんのために』です。



time schedule

- 8:30 - カルテチェック
- 9:00 - 中枢班 PT
カンファレンス
- 9:20 - 診療開始
カルテ記載
- 12:00 - お昼休み
- 13:30 - 神経内科リハビリ
カンファレンス
- 13:20 - 診療開始
カルテ記載
診療終了
- 16:40 - 中枢班カンファレンス
- 17:00 - 中枢班ミーティング
カルテ記載
明日の準備